

〈公〉は、その事象が特定の個人だけでなくより多くの人に関係するときにイメージされる。これに対し、〈私〉は自分の関わることだけに没頭して他者を顧みることなく私利を追求するとき把握される。一般的に、〈公〉〈私〉は対立関係にあると思われがちだ。しかし、何が〈公〉で何が〈私〉か状況と文脈（コンテキスト）によって異なる。また、〈公〉は常に正しく〈私〉は些末なものだから、〈私〉は〈公〉に従うべきだというような価値判断を伴うことが多い。しかし、これも誤りであることは歴史が証明している。私たちが〈公〉〈私〉について論じる時、その事象の個別具体的な状況や文脈（コンテキスト）に注意を払うことが大切だ。

私の住むA地域の市所有の山林に、市営のゴミ焼却場の建設が計画された。市の人口は50万。A地域は市内の山間部にあり、世帯数は約50。近くには市の水源地であるダムとその支流の河川がある。以下、計画地は支流の上流に位置するという想定で反論する。

「住民エゴ。地域エゴ」という批判は正当ではない。なぜなら、集落50世帯から出されるゴミの量に比べ、市内中心部のゴミの量は圧倒的に多い。収集・運搬の労力やコストを考慮すると、焼却施設は市に中心部にあるほうが合理的だろう。市内全域のゴミをわざわざ遠方の山間地に運搬して焼却しようとするところこそ「エゴ」といえるのではないか。

また、計画地は水源地である。自然環境への影響は少なくない。計画地の森林は伐採され、新たに搬入用の道路が建設される。そこを毎日ゴミの運搬車両が通行する。いくら排出基準を守っているとは言え、排気ガスや焼却後のばい煙は市民の飲み水を確保すべき水源地に降り注ぐ。市民の健康への影響を心配する声上がるのも当然だ。

さらに、行政内部の手続きの過程が不透明であることを指摘したい。私たち地域住民は自治会で話し合い、地元として計画の受け入れは了承できないと決定、その旨を市の担当部署にも伝達した。その中で、A地域に決まった経緯や水源地への環境影響評価の詳しい結果を明らかにすることや、現在の稼働施設の耐用年数、改修による費用、代替案の検討の有無などを明らかにするように求めた。地元の意思や質問への応答がないまま、行政側から一方的に「地域エゴ」と批判されたことは市民として市政運営に不信を覚える。

もちろん、私たちは私欲（私）を振りかざすつもりはない。市民として行政（公）に協力すべき場面はあると考える。だから、計画について自治会で話し合い、さらに市当局と対話を重ねる姿勢を貫いてきた。ゴミ焼却場は市民全員に関わる問題だから、もっとオープンで理性的な議論を期待したい。